2013年3月14日 運動、 松下電器産業労働 加

外科などの高度医療)

強化する。

ネパールのシッダルタ

視鏡手術、

心臓外科や脳

の被災者救援医療活動を てAMDA多国籍医師団

グラデシュ友好病院

竣 式に参

2014年秋にインドの

的には、三つの病院間の **互協力体制である。現実** 病院(周産期医療) ある日本―インド友好病 フッダガヤに開設予定で (小児心臓外科)

流の推進である。この3

者間協力の支援としてA

MDAがこれまでに各国

の医科大学と締結してい

る包括協定が生きてく

関相互協力体制は

存在する。三つの医療機 派に対する社会的差別が ク状をなしていて、

の日本NGO連携無償資

今回の増設は外務省

金とにより1998年に

毎日新聞読者の方々の墓 域をはじめとする多くの

棟の竣工祝賀式に出席し 新たに増設した周産期病 ッダルタ母と子の病院に 1998年に開設したシ ネパールのブドワールに

ズクラブ、生活協同組合

東京渋谷ライオン

コープこうべなど阪神地

金協力の補助金をAMD

至った。88年の開院以来、

れていた故篠原明医師 ジェクトに参加してく

、この病院設立に対し

周

各社会事業団はじめ多く

療と看護体制の強化が今 54床である。 周産期医

後の目標である。現在で

ともなる。

二つは南アジアや西ア

れば多国間医療協力の場 床実習関連医療施設とな る。各国の医科大学の臨

本―バングラデシュ友好 デルである。例えば、日 れた相互扶助」の良きモ

は、高知大学医学部に前

岡山県立大学に後者

の方々のご支援をいただ

AMDA兵庫県支部

産 期 タン難民医療支援プロ

93年からネパールブー

棟 抦

会開発機構が受け竣工に A クループの A M D A 社

自都のカトマンズ以外で

教の信者の居住がモザイ

スラム教を背景にしてい グラデシュ友好病院はイ グラデシュの日本ーバン ド友好病院は仏教、バン 教、インドの日本―イン 母と子の病院はヒンズー

各国ともに三つの宗

グラデシュ南東部ラム村 病院は、昨年10月、バン

による仏教徒の寺院や住 居焼き打ち事件発生直後

で発生したイスラム教徒

動のためにAMDAイン ジアの災害被災者救援活

ターナショナル直属の各

深化である。 AMDA多国籍医師団の 命があればどこまでも」。

発している。この三つの

(AMDAグループ代表)

病院が災害拠点病院とし

に設立された日本一バン

149名。 ベッド数は1

護師57名。職員の総数は

ラデシュのダッカに9年

現在の医師数21名。

紹介した。

一つはバング

れの国も過去に災害が多 遺することである。いず

の紙面をかりて感謝した

関係者の方々に改めてこ れ悪戦苦闘してくれた。

神支局長の積極的な支 朝野富三部長と藤原健阪 会が発足した。当時の毎 口新聞大阪本社社会部・

西部では重要な病院とし 協力のもとに、ネパール

などAMDAグループの やAMDA社会開発機構

て発展。年間出産数は3

修も付記したい。

祝辞として二つの夢を

済生会病院での1年間研 る。ビノー現院長の岡山 の支援をいただいてい

病院からAMDA多国籍

医師団に医療チームを派

派遣している。

一救える

に村に緊急救援チームを

000を超える。

Aネパール支部創設者]

ポカレル医師(AMD

初代院長のラメシュワル

は3年間カトマンズを離

は唯一の母と子の専門病 者に対する日本留学中の 95年の阪神大震災被災 て亡くなる間際まで尽 ンティアでしてくれた。 計は安藤忠雄氏がボラ 力してくれた。そして設

病院の

タ母と子の病院組織委員 献に感謝して、シッダル ネパール人医師たちの貢

援、大阪ガス、小さな灯が